

新・バリアフリー宣言

住まいの力が支えるからだところ

高齢化が進む社会では、住まいに力が必要です。高齢社会の住まいをつくる会では、新・バリアフリー宣言として、次の三つを宣言いたします。

1：バリアフリーの住まいには対応力があります

住み慣れた場所でできるだけ長く住み続けるためには、加齢による身体能力の変化、生活スタイルの変化などに柔軟に対応できる住まいの力が必要です。在宅時間が長くなる高齢期の暮らしには、窓からの景色、光や風の入り方、室温や香りなどの五感への配慮も大切なポイントです。

また安心して住み続けるためには、人が安全に暮らせることと建物が安全であることはとても重要です。しかし、安全性だけをあげても、そこに住む人の身体や心の状態が考慮されていなければ、長く住み続けることは難しいと考えます。

■対応力のある住まいのポイント

- ①身体能力の変化への対応
- ②生活スタイルの変化に対応
- ③人と建物の安全性の確保

2：バリアフリーの住まいには包容力があります

超高齢社会を迎えた現在、バリアフリーはもはや“特別な人のためだけの特別なもの”ではありません。杖や車いすを使って快適に生活できる住まいは、友人や親戚など、いつでも誰にでも気楽に訪ねてもらえる住まいになります。それは社会からの孤立を防ぎます。また毎日の生活に楽しみや喜びをもたらし、人生に新たな目標さえ与えることができます。

ある日気がつくと友人や知人と疎遠になっていることがあります。年齢を重ねていくと障害を持つリスクが高くなりますが、それは友人・知人も同様のことです。住まいに包容力があれば、よちよち歩きの幼児や、杖や車いすを使用している訪問者を優しく迎え入れることができます。

■包容力のある住まいのポイント

- ①訪問しやすいアプローチ
- ②来客も使えるトイレ
- ③ご近所とのゆるやかな繋がり

3：バリアフリーの住まいには支援力があります

加齢による身体機能の低下や障害のために「あきらめてしまったこと」を、住まいの工夫や福祉用具を導入することで「できるようにする」ことが住まいの支援力です。持っている能力を十分に発揮できれば、次のステップを夢見て挑戦したいと前向きな気持ちになれます。障害は個別性が高いものですが、じっくりと対話を重ね、様々なシミュレーションを通じて、住まいの可能性を探していきます。住まいの支援力は、介護負担を軽減させ、時には障害を忘れさせることができます。

■支援力のある住まいのポイント

- ①自立を促すしつらえ
- ②介護を手助けする工夫
- ③社会サービスを受け入れる準備

※2013年に「介護力」から「支援力」に表現が見直されました

2010年11月6日 高齢社会の住まいをつくる会設立10周年記念シンポジウム
「新・バリアフリー宣言」住まいの力が支えるからだところ より

<http://www.kourei-sumai.com>

